のを携へ歸られたるが同校職員ハ賢こき邊にて斯くも美術に御心を懸けさせらるゝハ有難きことなりとて何れも感涙を流し居ると云ふ

（明治二十四年十月九日『国会新聞』）

関連事項

① 官制（東京美術学校）

○官制

勅令第百三十七號仝第百四十一號抜抄（明治廿四年七月廿四日發布）

東京美術學校

一東京美術學校ハ繪畫、彫刻、建築、及美術工藝ノ技術者又ハ普通ノ圖畫教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

學校長	一人	奏任
教授	十一人	奏任
助教授	十人	判任
書記	五人	判任
技手	二人	判任

（『東京美術学校一覧 従明治廿四年至明治廿五年』）

② 両大臣の楠公像視察

明治二十四年九月二十四日、松方総理大臣、大木文部大臣の一行が来校し、楠公銅像木型の製作を視察した。新聞はこれを次のように報じている。

○兩大臣楠公の彫像を視る

今度宮城正門前に建設になるべき楠公乘馬銅像の木彫原形楠公像は有名なる彫刻家石川光明、高村光雲の兩氏が其像を後藤貞行氏が其馬を擔任にて既に其木取り丈け出来せしに付き松方総理大臣大木文部大臣は辻次官大島秘書官等を隨へ昨二十四日東京美術學校内の右彫刻場に臨み其の模様を檢視せり

（明治二十四年九月二十五日『東京新聞』）

③ 日本青年絵画協会の発足

明治二十四年十一月二十一日、上野公園桜ヶ岡日本美術協会列品館で日本青年絵画協会の発会式が行われ、岡倉校長は会頭に推戴された。同日より三日間、臨時研究会（二百余点を出品審査）も開かれた。当時の事務所は深川区清住町二十五番地川端玉章方である。

同会は川端玉章、川辺御楯門下その他の青年画家（三十歳以下）によって結成されたもので、尾形月耕、寺崎広業、梶田半古、村田丹陵、山田敬中、小堀鞆音、福井江亭、島崎柳塢等々、本校以外にあって岡倉校長の方針に共鳴し日本画革新の道を歩もうとする青年たちの道場となった。同会の共進会は明治二十五年の第一回（十月十五日～三十一日、於本校々友会倶楽部）の後、毎年開かれたが、岡倉校長は褒賞授与式に臨み、作品評や演説を行うのが常であり、青年たちの指導に熱意を燃やした。同会の月次研究会では橋本雅邦、川端玉章、川崎千虎などを判者とする絵合（えあわせ）の催し（明治二十七年九月二十三日第一回）なども行われた。

④ 美術学校予備校（美術講習所、共立美術学館）

東京美術学校の存在が一般に知られるにつれて志望者も増加し始